

りんどう

褐斑病

発生の動向

- 1 平成 28 年以降、令和元年を除き毎年発生がみられている（図 1）。
- 2 令和 2 年の巡回調査では、9 月中旬の発生圃場率は 14.3%（平年 4.3%）で、平年より高かった（図 1）。
- 3 時期別では、8 月下旬から発生がみられ、一部圃場では多発となった（図 2）。
- 4 令和 2 年は重点防除時期の 6 月下旬～7 月下旬に降雨が多く、感染に必要な葉面濡れ時間が確保されたため、一次感染に好適であったと考えられる。
- 5 令和 2 年に発生した圃場では、伝染源量が多いと考えられる。

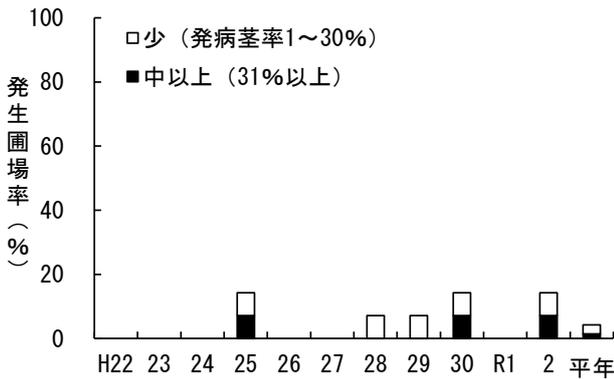


図1 褐斑病の発生圃場率の年次推移(9月中旬)

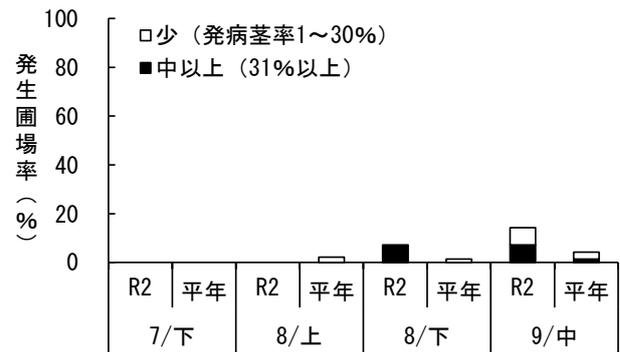


図2 褐斑病の時期別発生圃場率

防除対策

- 1 6 月下旬～7 月中下旬にかけて一次感染し、2～3 週間の潜伏を経て 7 月下旬～8 月上旬頃に初発がみられる。特に、前年の発生圃場では本年も発生するため、6 月下旬～7 月下旬に効果の高い薬剤で、計画的に防除を実施する。
- 2 定植初年目の発生を防ぐため、定植直後から防除を徹底する。
- 3 薬剤が到達しにくい下位葉や畦の内部、畦の北側など日当たりの悪い場所で発生が多く見られるため（写真）、薬剤が株全体に十分かかるように散布する。
- 4 株仕立てが不十分であったり、風通しの悪い圃場では発生が多くなるため、適正な茎数に管理する。
- 5 被害の拡大防止と伝染源除去のため、被害茎葉は取り除いて圃場外へ運び出し、土中に埋めるなどして処分する。
- 6 秋にも発生がみられるため、採花後も圃場内を見回って発生の有無を確認し、被害茎葉は適切に処分する。



写真 多発事例（平成 30 年 8 月上旬）

※畦の内部での発生が多い